

	放送大学茨城同窓会会報 <h1>ときわ</h1>	発行所 放送大学茨城同窓会(茨城学習センター内) 〒310-0056 水戸市文京 2-1-1(茨城大学内) 発行人 会長 葛貫 壮四郎
	2008.3.14 現在の茨城同窓会 会員数92名 茨城同窓会 Web サイト <a href="http://uair-dosokairengo.net/ibaraki/">http://uair-dosokairengo.net/ibaraki/</a>	

## 放送大学での仕事を終えるに当って

茨城学習センター長 塩見 正衛



(研修旅行の車中にて)

放送大学茨城学習センターの所長としての最も大きな仕事といえば、入学と卒業の集いの主宰である。その時にはおごそかな気持ちになって、祝辞らしき

言葉を宣はり、厳かな手つきで卒業証書を手渡したりする。

放送大学でのもう一つの大きな仕事は、学生募集に県内を駆けめぐることである。3年前に着任してしばらくした6月からそれは始まった。そのころ事務長だった細谷さんから、「市町村の役場を回って、首長、広報担当、教育委員長に会って放送大学を宣伝し、広報誌に学生募集の公告を載せてもらうように依頼してください」と言われたのである。第1日目は、北茨城市からひたちなか市までである。前日、茨城県の地図に役場の所在地と道順を詳細に書き込んでおいたけれども、翌日それを実行してみるとなかなか目的とする建物に行き着かない。途中で自動車を降りて、道端の通行人、ときには小さな店に飛び込んで、「市役所はどの方向ですか？」などと尋ねながらの難行苦行であった。小さな町の役場は古くて小さいから目立たない。おまけに、町の道路は入り組んでいて、近くまで来ていてもどこに役場があるのか分からないことが多い。

当初は、現在のように市町村合併が進んでいなかったから、本当にたくさんの役場を回った。首長に会えることはほとんどなかったが、ある役場に行ったときには、町長自ら「放送大学の学生(職が多忙なため、その時は休学

中とか)です」とおっしゃって、私も多少緊張が解けたことがある。ある村役場を訪問したときには、選挙で敗れた村長の最後の1日であった。秘書課の職員が、「明日退任されるのですが、それでも会っていただけますか？」と尋ねるので、私は、「是非会わせてください」と言って村長室に入れてもらった。旭村役場に行ったときには、村長としばらく話しができた。特別話しの準備をしてきているわけでもないから、話の種が尽きてくる。それで引き上げてくればいいのだが、私が農学部出身というこだわりから、少し農業の実状を聞いてみようという気になった。そこで、「この村の農業はやっぱり稲作が中心ですか？」と口火を切って、大失敗をした。メロンのことをすっかり失念していたのである。

こういう営業活動は、最初は市町村の役場回りだけであった。ある時、授業に来ていた学生の一人がつくばにある研究所の職員であることが分かった。彼は、「研究機関にはたくさん事務職員がいるから、勧めてみたらどうですか？」と言うので、私は直ぐにつくばの研究所回りをする決心をした。私自身、その研究所に在職したことがあるから雰囲気分かっている行きやすい。つくばには官庁が所管する数十の研究所があって、おそらくそこに働く事務職の人たちは数千人に及ぶだろう。

昨年からは、桜岡事務長と一緒に大きな病院の看護師さん目当てに宣伝を始めた。水戸市にある茨城県看護協会に紹介状を書いてもらって病院を訪問し、看護部長さんに会って放送大学のことを話すのである。会うとどの病院でも、熱心に聞いてくれる。院長が出てきて、「よろしく」と言われたこともある。他にも、単位制の高等学校や県内の大企業を回った。大企業では敷地に入れてもらえないこともあったし、入っても誰も会ってもらえないことがあった。

このような営業活動がはたしてどのくらい効果があるか私にはよく分からない。ともかく、

「放送大学の卒業生が100万人まで増えたとき、日本は変わっている」という信念で、3年間を過ごしてきた。一番気をつかっていた交通事故を、幸い一度も起こさなかったのでホッとしている。

## 同窓会行事にご参加を!!



会長 葛貫 壮四郎

茨城同窓会は、2001年12月に発足以来、7年目に入ります。

昨年は、5周年記念事業として、「シルクロード

の研修旅行」を企画し、他の同窓会からの参加、会員の友人を含めて、18名の参加があり、盛大に実施することができました。さらに、連合会役員および歴代役員の皆様の交流の場である「いちょうの会」の幹事役を茨城同窓会が行い、28名の皆様に、茨城の歴史と自然を楽しんで頂きました。

次に、放送大学連合会の動きですが、同窓会の無い学習センターには、放送大学と同窓会連合会が協力して働きかけを行っており、現在、35の同窓会が設立されております。これを機に、次期総会時には、全国化に向けて、規約改正が行われる予定です。

さて、会員の皆様に、同窓会の行事への積極的な参加をお願いします。当面は、4月13日に総会を実施します。皆様のご意見を総会に反映していただき、有意義な同窓会にして行きたいと存じます。総会終了後には、外部講師を呼んでの講演会を実施します(詳細は最終ページ参照)。

放送大学同窓会連合会並びに茨城同窓会の動きは、下記Webサイトで順次公開しておりますので、訪れて下さい。サイトは、ブログ形式になっておりますので、ユーザ登録することにより、皆様から直接、情報発信もできますので、ご利用下さい。

連合会サイト:

<http://uair-dosokairengo.net/>

茨城同窓会サイト:

<http://uair-dosokairengo.net/ibaraki/>

## 敦煌から西安までの旅行記

敦煌に旅して

丹 協子

念願の敦煌へ行くことが出来た。しかも同窓会の人たちや知人など気心の知れた仲間との旅は心浮き立つものであった。

ところが出掛ける直前になって上海からの飛行機が人数不足のため取りやめになり、日程を変えざるを得なくなった。上海では夢橋飛行場への移動、その他の時間が必要になり敦煌へは深夜になる。最初から強行軍である。会計係りはおにぎりを用意したり諸々の気遣いがあったと思う。

しかしみんな元気で莫高窟は午前午後に渡って精力的に見学し、夕方からは駱駝に乗ったり鳴砂山に登ったり、砂山を橇ですべり降りるなどの、まず日本では体験できないことをした。一日目のこの体験が私は一番印象に残った。駱駝も初めてだったから駱駝の歩調に合わせて乗っているのが精一杯であった。



鳴砂山で印象に残ったのはある青年のことである。砂山の木の梯子を登っているとスタスタと靴下のまま駆け上っていく青年がいた。随分元気な人がいるな、と感じた。

梯子は山の9合目あたりまででそこから上は何も手がかり足がかりがない。私たちは宙をのた打ち回るような格好で上をめざさなければならぬ。あと5メートルか、その距離がなかなか進めないのである。すると青年が手を差し伸べて引き上げてくれた。その後も何人かの人たちの手を引き上げてくれていた。走って登っていったのがその人かとやっと理解した。

砂山からの眺望は自然の素晴らしさを語っていた。前後に重畳と砂山があり、前面には緑のオアシス、敦煌の町が広がっていた。空には飛行船、そして眼下には月の形をした月芽泉、数ヶ月夢に見た景色が現実となって広がっていた。下山する途中から私は橇に挑戦した。ひっくり返りそうになりながら必死で橇にしがみついたのも旅先だからこそこの体験である。

下山して集合場所で杏ジュースを飲んでいると柱の影からじっと我々の方を見ている人がある。さっき手を引き上げてくれた人だと気づいた。前後も考えず声を掛けてしまった。青年はびっくりして通訳の方に飛んでいった。「突然話しかけてきた！」と。私は通訳の人に砂山で手を引っ張って登らせてくれたことを説明した。私は単にお礼が言いたかっただけなのだが驚かせてしまった。その青年は私たちの行動に密着してCD作りのためのカメラマンであった。木へんにこう、と手の平に苗字を書いて見せた。楊貴妃の楊という字であった。私のカメラには偶然彼の赤いシャツの後姿が映っている。

彼は誰に頼まれたわけでもない手助けを自主的にしていると思われ、今もあの時の感動が時々蘇る。

二日目はバスで陽関、河倉城遺跡、漢長城などを見学したが、どこまでも広い砂漠のような風土(通訳の人は、砂漠とは言わずゴビタンと言った)

昼食はぶどう園のある農家のレストランで食事後、店の少女が手招きしてブドウ畑へ誘ってくれた。たわわに実った青い葡萄棚と栗の木々の畑、そしてどこにもあるような夏の花、ダリヤやバラなどが咲いていた。言葉を超えた暖かい心使いが嬉しかった。

三日目は西安では博物館見学で古美術に目を見張り、最終日の晚餐は数十種類の餃子を堪能した。

最初の日程で身を引き締めたためか皆元気で旅程をこなせたのはなによりのことである。莫高窟はなんと言っても歴史的な背景を知れば知るほど興味深くなるし、鳴砂山も景観の素晴らしさは現地ならではのものである。加えて一青年と少女との生身の人間との出会いが今回の旅行の印象を一層深くしてくれた。

## 百聞は一見に如かずの旅

群馬県 原澤 俊

敦煌の旅は私にとって正に「百聞は一見に如かず」の経験でした。特にゴビ灘から受け取った感銘は、全く今まで想像だにしていなかったものです。

此処だからこそ、あの優美な莫高窟の数々の仏像が生まれたのだ！と一人合点をした次第です。そして大きく広がる砂ばかりの鳴砂山、驚きの連続でした。

そして初めて見た「オアシス」は、今まで私が懐いていた先入観を大きく変えざるを得ませんでした。ゴビ灘、鳴砂山、オアシスに接して見て、初めて玉門関、陽関、河倉城の存在が理解できました。今までの疑問が氷解した様な気分です。

これらのものが全て何処かで繋がっているのだ！そんな風に思っています。あの自然が無かったら現在とは異なった文明が生まれて居たのでは無いでしょうか？ また異なる自然、文明に接して見たいと次の旅を空想しております。



(鳴砂山とラクダ)

## 西域への旅

前島 寿子

思っていた通り降り立った中国は、総てにその様子が10年前とは変わっていた。此処が中国かと思うほど随分綺麗に様変わりしたのに驚いた。そして、何処へ行っても中国のエネルギッシュな姿には圧倒され、其れとともに計り知れない大きな底力を感じた。

今回の旅では、最初に上陸した上海は乗



り継ぎのため国際線浦東空港から現在は国内線が主となっている虹橋空港への移動が目的であった為、国際色豊かな上海の街並みも殆どが車窓からの眺めであった。それでも豫園の近くで車を降り、下町情緒が広がる繁華街の豫園商場でお茶を飲むことが出来た。此処には何時の時代でも変わらぬ庶民の素顔がある。

次の下車は黄浦公園、上海の街を抱くように流れる蘇州河と黄浦江を臨む一角にあり、この辺一帯は通称外灘、かつてはバンドと呼ばれていた処。黄浦江は、有名な長江が長旅の果てに太平洋に注ぎ込む直前の大河である。この黄浦公園からは、中国が「世界で一番高い」と自慢するテレビ塔が眺められる。夜景も又美しいところで、昔はアベックの姿が多い処だった。肩を抱き合い黄浦江の流れを見ながら語り合っているカップルが見られたのに、そんなロマンチックな光景など何処かへ消え去り、今の黄浦公園は此処もエネルギーな人の波が押し合っていた。上海のメインストリート、南京路は車中から横目で見ながら通り過ぎた。

いよいよ我々一行は、上海を後に虹橋空港から目的地シルクロード敦煌に向けて飛び立った。昔で言う胡人の国である。敦煌は、漢代から交易が栄えたところと知られている。莫高窟は其れより25キロ近く離れ、三危山と稜線の美しい鳴沙山の間、切り立った断崖に南北に渡って開かれた正に「砂漠の中の大画廊」である。

到着した莫高窟は、驚くほど整然と整備され、塵一つ無いほど綺麗だった。昔、幾つも並んだテントから大声を張り上げて客を呼ぶオバさん連中の姿は、何処にもなかった。10年前とは言え、その変わりように驚いたが、其処にまた中国の成長を垣間見た思いでもあった。10年前、莫高窟の見学者は外人観光客が多く、中国の団体客は余り見かけなかったように覚えている。しかし今回、見学者の多くが、中国国内の旅行者団体だった。文化に対する関心の高まりもさることながら、それだけ中国は豊かな国になったのだと感じた。

また一方では、十六国時代から北魏、西魏、隋、唐、五代、西夏、元と長い各代に渡って築かれたこの人類の文化を、中国の研究者達はしっかりと護っている。窟の中には二酸化炭素測定器が設置され、基準値に達したら入窟を制限する策がこうじられていた。そ

の心意気に感謝を覚えた。

敦煌博物館では、莫高窟の第13窟から出た経文類、玉門関や陽関からの出土文物、漢代の木簡、烽火台で使われていた火炬、梵字の沙符印版、北魏、北涼の石塔、鎮墓獸などが展示されており、漢代以降この地が果たした歴史の重さを実感した。



(敦煌から西安に向けて飛び立つ飛行機の前で)

この旅の最後の夜は西安で迎えた。幸いなことに我々の宿泊ホテル、唐華賓館は大雁塔の直ぐ近くにあり、夕食の後数人で大雁塔の周りを散歩した。残念ながら大雁塔が建てられている慈恩寺の境内には入ることが出来なかったが、大雁塔七層の各窓には明かりが灯され夜空にくっきりと浮かび上がっていた。玄奘法師が天竺から持ち帰った仏典を保存するために652年高宋が建立したと伝えられている。昔、塔の中の狭い階段を息を切らせながら昇ったことがあったが、其処からは壮大な西安の街並みを眼下にすることが出来た。今でも大雁塔の中は昇ることが出来るのだろうか。

西安に別れを告げて飛行場に向かうとき、車窓から雄大な長安の城壁を見ることが出来た。今回は城壁の上に昇ることは出来なかったけれど、古都長安からひとたび城壁の門を出れば、其処は灼熱地獄の砂漠、昔の旅人はどんな思いでこの門を西へ向かって出て行ったのだろうと、そんな思いがふと頭を横切った。

## 貴重な中国研修旅行

細川 力

遙か昔、三蔵法師が天竺の旅から命がけで経典を携えて無事生還した「敦煌」は交通の要所だった。インドから太陽神や火神などがアレンジされてきているのが敦煌莫高窟の壁画や仏像で垣間見ることができた。数千年経っていたとは思えない色彩の豊かさに感動した。火の燃え立つような荒涼たる峰々の砂漠。そして柔らかく足首まで沈んだ砂丘の山は見ただけでいい。

深夜ホテルのトイレがロックされ大騒ぎした、これも貴重な体験でした。



(敦煌莫高窟の前で集合写真)

## 訪中の旅に同行させて頂いて

群馬県 角田 貫

シルクロードの玄関として栄えた都市、敦煌の立地条件や歴史のさまを驚きつつ、見聞させていただきました。砂漠とオアシスの姿、遺跡玉門関・陽関をつぶさに見、感激の数々を体験出来ました。高校時代、王維・李白・杜甫などの唐詩を学んだ懐かしい先生を偲びながらの良い旅でした。

中国でも日本でも不祥事が頻発している

昨今ですが、過度の利益追求を憂い、人名の尊さや思いやりの心の大切さを気遣う場面に遭遇して、中国も良い国だと思ったことが幾つかありました。敦煌博物館でも西安の陝西省歴史博物館でも、研究員に説明してもらいました。徳を尊んだ王朝の人々は安寧であったとか、貴重な文物を発見したとき中国では、国の大切な宝物だからと言って博物館に預けに来ますよと聞いて、これは素晴らしいことだと思いました。研究上の裏付けの記名、A氏蔵とかいうことは大切なことです。文物について個人で宝物を所有し、偽者本物、時価いくら等が文物の価値を離れすぎていく動向を気障りに思っていたからです。

ガイドさんが、中国の生き馬の目を抜くような開発について、都会から農村に移り落ち着いた生き方を望む人もいるのだと話していました。敦煌まで空路や鉄道が伸び、オリンピックや万博を控えた活気と、その反面人心のあり方についても見聞出来、満足しています。

## 見て、楽しんだ中国の5日間

福岡県 床島 敏彦

中国の中でも奥深いシルクロードの果ての敦煌という地に、連合会情報に誘われて、茨城同窓会第1回訪中旅行に参加いたしました。

いきなり黄砂の物語ですが、何しろ黄砂の発生場所に降り立ったので旅した黄土高原の印象を記してみます。遠い祁連山脈の雪解け水が地中深くから伏流水となってオアシスを産み、そして月牙泉という潤れた事がないという泉も鳴砂山の近くにあるのが不思議に思えてなりません。



(鳴砂山から望んだ月牙泉)

茨城同窓会の皆さんと一緒にラクダに乗れた事はヒットでした。初体験でラクダは楽だと大変楽しめました。竹内ガイドさんのもてなし、気遣いはチラシ寿司と味噌汁で表れ、暖かい人相の好青年でしたし、後から5日間のコースや案内などもいただき嬉しくなりました。

莫高窟の印象は泥土で作られた塑像と壁画が長い年月作られ残されているなというもので、文化財の価値の高さに圧倒されました。巨大の一言です。

### 「コスモスとおさかな」を楽しむ会開催

幹事 葛貫 壮一郎

いちょうの会では、去る、2007年10月8日から10月9日、ひたち海浜公園および大洗のアクアワールドを中心に、「コスモスとおさかな」楽しむ会(群馬同窓会:鈴木会長)を実施した(28名参加)。

初日は、まず、ひたちなか市にある虎塚古墳を見学し、説明員から発掘時の状況などの説明を受けた。その後は、丸文割烹にて、海鮮弁当を堪能した。食事後、アクアワールドにて、きれいな魚、大きな魚、珍しい魚など楽しんだ。夜は、大洗鷗松亭にて、各同窓会による余興など行い、楽しい夜を満喫した。

次の日は、雨模様であったが、ひたち海浜公園にて、コスモスやコキアを楽しみ、その後、湊の史跡を見学し、勝田駅を後にした。

茨城同窓会の幹事役は、細川氏、前島氏、古徳氏、葛貫氏です。ご苦労様でした。



(大洗鷗松亭の玄関にて)

### 全国同窓会情報交換会に出席

会長 葛貫壮一郎

2007年11月23~24日、放送大学本部にて、全国同窓会情報交換会が、開催された。23日は、本部との意見交換会、24日は、同窓会会長懇談会が開催された。状況は、下記の通りです。

1. 放送大学本部との意見交換会(11/23)  
各同窓会の活動状況報告と、放送大学の状況、各同窓会からの要望質問など活発に議論されました。36名出席

1.1 放送大学の状況報告

- ・入学者・在学者状況:H14年度ピークに年々減っている。本部も危機感大。同窓会からのPRを期待
- ・放送大学の英語名称変更  
旧:The University of the Air  
新:The Open University of Japan
- ・エキスパート制度の認証発行状況
- ・放送大学のビジョンを策定中、また、改革中
- ・学部と大学院の連携を良くする。
- ・面接授業を135分から85分に短縮
- ・申請を書類ベースから電子申請へ
- ・50の学習センターに全部に同窓会作っていただきたい。本部も協力する。

1.2 各同窓会からの要望

- ・単位互換→関係する大学と互換認定はしているが、今後も増やしていきたい。
- ・印刷教材が間に合わない→印刷教材が間に合わない場合は、開講を中止すると教授に連絡。今後はなくなる。
- ・期末テストの答案解答開示→直ぐには難しいが検討はする。

2. 全国同窓会会長懇談会(11/24)

2.1 卒業・祝賀パーティ

- ・2/16実行委員会実施:ホテルニューオオタニにて。実行委員選出する。茨城同窓会の実行委員は、役員会にて、前島氏、丹氏、葛貫氏の3人に決定済。
- ・3/16卒業・祝賀パーティ実施、ホテルニューオオタニにて実施。卒業式は昨年と同様NHKホールにて開催。
- ・会費は1万円



- 2.2 全国化に向けて会則案論議
- ・総会の議決方法の審議：同窓会会員300毎1票(端数は切り上げ)
  - ・任期：1年(再任OK)
  - ・会費：会員数に応じて負担する。負担金は総会で決定
  - ・次期総会で会則変更を決議

### 卒業 & 入学の集い開催

茨城同窓会では、平成19年10月6日、卒業者と入学者を対象に祝賀パーティを開きました。塩見所長と客員教授の挨拶の後、各サークルの活動が紹介されました。

### 新入会のみなさま

6名のみなさまが、新入会されました。会員一同、大変嬉しく、歓迎いたします。行事への参加もお待ちしていますので、どうぞ宜しく願致します。

お名前	住所	専攻
立原 やい子	日立市	生活と福祉
郡司 久	土浦市	生活と福祉
柴 弘子	石岡市	生活と福祉
増田 泰造	牛久市	社会と経済
井澤 庄治	那珂市	人間の探究
野口 利秋	守谷市	人間の探究

## 第7回茨城同窓会総会と

### 特別講演会のご案内

日時：平成20年4月13日(日)  
 総会：午後1時～3時  
 特別講演会：午後3時～5時  
 場所：放送大学茨城学習センター  
 3F会議室

議題：

- 1) 第1号議案 平成19年度活動報告
- 2) 第2号議案 平成19年度会計報告
- 3) 第3号議案 平成20年度活動計画
- 4) 第4号議案 平成20年度収支予算
- 5) 役員改選

特別講演：(詳細は同封案内参照)

演題：職業リハビリテーションにおける私の実践と研究を振り返って

講師：仲村信一郎(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター研究員)  
 出欠は、同封したハガキにて、会長宛に返信下さい(4月6日まで)。

### 平成20年度第2学期学生募集

放送大学に興味をお持ちの友人・知人の方をご紹介下さい。また、同窓生の皆様も、再度、入学して学んでみませんか。

出願期間：平成20年6月15日から  
 8月15日(水)必着  
 連絡先：茨城学習センターまで  
 〒310-0056 水戸市文京 2-1-1  
 TEL: 029-228-0683  
 FAX 029-228-0685

### 放送大学機関誌(ONAIR)の同封

放送大学学園のご厚意により、同窓会会員の皆様にも、ONAIRを分けて頂くことになりました。今号から、同封致します。同窓会会員で、学生在籍の方は、2重になりますが、知人にあげるなどされて、有効にご活用されて下さい。

### ときわの原稿募集

ときわに掲載する原稿を皆さんから募集します。内容は、研究テーマ、趣味や旅行など何でもOKです。

原稿ができあがりましたら、会長宛までFAXもしくはメール下さい。次号に掲載したいと存じます。

連絡先：会長：葛貫(くずぬき)

FAX: 029-352-9495

Mail: s-kuzu@doctor.email.ne.jp

### 編集後記

「ときわ」は、会員の皆様からの投稿を得て、発行しております。今回は特に、海外研修旅行に参加された、茨城同窓会以外の会員の方々に、ご協力いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

(猪膝・大川・葛貫・高木)

特別講演

# 職業リハビリテーションにおける私の実践と研究

22年間の実践と研究に基づき、職業リハビリテーションとは何かについて、講演して頂く。

## 記

1. 日時  
平成20年4月13日(日) 15:00～16:30
2. 場所  
放送大学茨城学習センター 3F 会議室
3. 講演者  
仲村信一郎(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター研究員)
4. 主催者  
放送大学 茨城同窓会 (会長 葛貫 壮四郎)
5. 対象者  
茨城同窓会、学生、職員他  
聴講無料、申し込み不要です(当日、会場にお集まり下さい)。

## < 講演概要 >

大学で学んだ心理学に関する職種につきたいとの思いで、雇用促進事業団の職業リハビリテーションのカウンセラーになった。その後、22年、職業リハビリテーションの発展と共に実践と研究を行ってきた。本講演では、自らの体験に基づく視点から、余り知られていない職業リハビリテーションの一端を紹介する。

尚、講演者の趣味のホームページ「ナカムラヤンの宮殿」は、Yahoo!の「心理学(心理テスト)」及び「障害者雇用」のカテゴリに登録されており、現在100万アクセスを越している(<http://ww9.tiki.ne.jp/~s-nakamura/nakamurayan/framepage1.htm>)。